

栄光

説教・「もっと大きなことを」 松谷祐二牧師……	1
特集・記憶に残る出会い ……………	2
CS夏季キャンプ 報告……………	4
栄光編集委員会 だより……………	5
長老のファイル……	5
牧師の寄り道……	6

説教

『もっと大きなことを』

ミカ書 4 章 1 節～5 節
ヨハネによる福音書 1 章 47 節～51 節

松谷祐二

フィリポは、友人のナタナエルに興奮して伝えました。「旧約聖書が予告していた方（メシア）に、私たちは出会った。しかしその出身地を聞くと、ナタナエルは馬鹿にします。「ナザレから何の良いものが出ようか」。

ところが、彼が来るのを見てイエス様がまず口にされたのは、賞賛の言葉でした。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い」。ナタナエルは戸惑い、尋ねます。「どうして私を知っておられるのですか」。「私は、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」。この言葉を聞いた途端、ナタナエルの態度は一変しました。「ラビ、あなたは神の子

です。あなたはイスラエルの王です」。

「いちじくの木の下にいる」とは何を意味するのか。ミカ書 4 章 4 節に、「人はそれぞれ自らのぶどうの木 いちじくの木の下に座し 脅かす者は誰もいない」とあります。なぜ誰にも脅かされず、安心して暮らせるのか。神と共に過ごしているからです。神の教えを聞き、その道を歩んでいるからです。主の名によって歩んでいるからです。

「私はあなたを知っている。フィリポに誘われて来たことも、いや、それよりずっと前から。あなたの信仰と生活のすべてを私は見ている。あなたは、神の教えを聞き、その道を歩もうとす

る人だ。主の名によって歩もうとする人だ」。イエス様はそう仰ったのです。

この日ナタナエルは、神に出会いました。心の奥深くまで、自分という人間を知り尽くしておられ、目を留めてくださる神に。イエスという方に、神を見たのです。この方を信じずにはおれなくなりました。彼の人生を揺るがす大事件でした。

しかしイエス様は仰います。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じているのか」。あなたのすべてを私が知っている、というだけで、そんなに驚いて私を信じるのか。「それよりも、もっと大きなことをあなたは見ているであろう」。神の御業から目を離さずにいなさい、という招きの言葉です。

「もっと大きなこと」とは何でしょう。か。「よくよく言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる」。天と地、神様の世界と、私たち人間の世界とを結ぶ道ができる、ということです。

創世記に出てくる「ヤコブの階段（はしご）」の話では、石を枕に野宿したヤコブが、夢の中でお告げを受けた時、天に達する階段が地に据えられ、天使たちが昇り降りしていました。

しかし、イエス様のお言葉では、天使たちがその上を昇り降りするのは、階段ではなく「人の子」、イエス様ご自身です。イエス様ご自身が、天と地とを結ぶ道となってくださいます。私たちはその道を行き、いつも、神様の近くで、神様と共に、生きられるようになります。ナタナエルだけでなく、私たちだけでなく、世界中の人もそうなるのです。この道を見いだし、そこをたどりさえすれば良い。

これは、大変なことですね。ぜひとも、「もっと大きなこと」を見せていただくなくてはなりません。そのためには、イエス様から目を離してはならず、イエス様の弟子として、従って行かなければなりません。ナタナエルはそうしました。私たちも、そうしまししょう。

（8月10日）

記憶に残る 出会い

私たちは人生のなかで様々な人と出会います。
家族や教会はもちろん、学校、職場、旅先でも。
あなたの記憶に残る出会いを教えてください。



本と大切な人たち

林崎信久

この人にこの本を読んでほしい、
と思って本をくださる方々との思
い出は、その本を読み返すたび鮮
明になり、強い印象に残ります。

30年以上前ですが、教会には「平
和の会」という東島昌子姉らが中
心となって開催されていた勉強会
があり、この会に参加できたこと
は楽しい思い出でした。永井清陽
兄や大友麻子姉ら多くの尊敬する
諸先輩の中でも、松本健兄から学
んだことは少なくありませんでし
た。学生時代は中国の近現代史を
勉強していたのですが、ある日、
松本兄が「あなたに差し上げよう
と思って」と一冊の本をください
ました。それはジャーナリスト松
本重治の『上海時代』という分厚
い本でした。本当に興味深い内容
で、今でも自分の愛読書で、中国
でも読むたびに松本兄を思い出し
ました。今年帰国しお会いした際
にはスラっとした長身そのまま、

片手にステッキ、片手に英字新聞
を抱え、相変わらずカッコイイ紳
士のままでした。いつまでも自分
にとって憧れの存在です。

もう一人、本を読むと思い出す
大事な方がいます。それは50年ほ
ど前によく遊んでくださった大澤
真理子姉です。共働きの両親に代
わり、真理子姉が私を連れてどこ
かの博物館に連れて行ってくださ
ったこともありました。当時の私
はイタリア好きで、人を困らせる
ことに生きがいを感じておりまし
たので、真理子姉が握ってください
る手を振り切って走って逃げ、困
らせまくり楽しんでおりました。

今年日本に帰国し、母の手伝い
で『栄光』を大澤先生ご夫妻に送
ったのですが、すぐに真理子姉か
らパンやリング、そして返却用の
封筒と切手と共に『フレディの遺
言』という一冊の本が同封されて
おり、読み終わり次第返却するよ
うにと書かれていました。「私が
まさかボケることはないと思われ
るかもしれませんが」という一節
で始まるのですが、非常に勉強に
なる一冊でした。この本を読むと
いつも真理子姉を思い出します。

素敵な女性たちとの出会い

大形いずみ

私は長年、政府開発援助の支援事業で、アフリカ、中南米、アジア等様々な国で仕事をしていました。特に思い出深い仕事に、中央アジアのキルギスで実施した村おこしのプロジェクトがあります。

この仕事には、4名の優秀なキルギス人女性の立役者がいました。リーダー格だったアイグルさんは日本の太学院を出た日本語も達者な姉御肌な女性で、窮地の時にもとても頼りになる存在でした（いまは伝統料理や文化を紹介する素敵なレストランのオーナーに）。ナスグルさんは、私より一回り位年下ですが、人生10回目位と思わせるような落ち着きで、相手が若者でも年配者であつても、人の潜在能力を引き出せるような不思議な感性を持っている逸材でした（その後日本で大学院に通い、今は自国の文化維持発展に貢献中）。ナルギザさんは、少し自信

なげな控えめで穏やかな女性でしたが、その吸収力には目を見張るものがありました（その後もキルギスの地方産品を扱うNPOの代表として活躍中）。ローラさんは、最初は偶然プロジェクトに遊びに来ていた学生だったのですが、得意な手仕事を活かし、女性グループに草木染を指導するようになるなど、みるみる成長していききました（今は子育て奮闘中）。

こんなに素敵な女性たちとのチームワークで様々な課題と格闘しながら、週末には一緒に料理をしたりハイキングに行ったり、同僚の域を超えた心の結びつきのある関係を築くことができました。

皆それぞれの道を歩んでいます。が、苦楽を共にした同士の繋がりは、終了後10年以上が経つ今でも特別なもので、時折オンラインで近況報告をしています。

よく、今まで仕事をした国でどこが好きですか？と聞かれることがあるのですが、それぞれの国の印象は出会った人々なしには語れません。こんな出会いの機会を与えてくださる神様のお導きに、心から感謝しています。

ひととの繋がりが人生！

風間 洸^{ほのか}

私はひととの出会いや巡り合いを大切にしています。高校2年の夏休み、小野寺史宜氏の著書『ひと』に出会ったことがきっかけです。両親を亡くした大学生が、様々なひととの出会いや巡り合いを経ること、生きること、光を見出し、ゆっくりと確実に立ち上がり前進する物語です。近所の住人や遠い親戚などとの何気ない会話やちょっとしたトラブルがきっかけで、新しい経験を得られたり叶えたい夢を見つかったりするかもしれない。誰かの一言により、自身の苦しみや不安が軽くなるかもしれない。自分の存在が誰かの支えになるかもしれない。

私の経験や人間関係を俯瞰したときに、この本に描かれているような繋がりによって、感性が濃く、豊かなものにされてきたことに気付かされました。その事実が面白く楽しくて、私の人生は素敵なひと

とに囲まれているなど幸せをかみしめる日々です。予期せぬ出来事の連続が、見たことも想像したこともない景色へと導いてくれる。それが人生じゃん！と、21歳ながら壮大な持論も有しております。

この本に出会ってから、小野寺先生の書籍を読み漁る毎日です。『ひと』以外にも、家族との歯がゆい距離感や、タクシー運転手の日常など、幅広いテーマを扱っていて、一見、別世界で繰り広げられる物語だと思わせられるが、既出の登場人物が別作品に現れることもしばしば。この社会は、世界は、ひとは、どこかで繋がっている、私自身もその渦中に存在している、と思わせられます。だからこそ、私にとってひととの繋がりは恵みであり、一生の財産です。3年半という短い間でしたが、当教会に集う皆さまと巡り合い、共に神様の御言葉に与った日々は、私の感性を刺激し人間力を深化させる大切な時間となりました。ここで得られた全ての出会いに、巡り合いに、経験に感謝します。これからの道も神様の導きと恵みに守られますようお祈りしています。

CS夏季キャンプ報告

8月15日・16日に「高尾の森わ

くわくビレッジ」で、CS夏季キャンプを開催しました。『御言葉と出会おう』をテーマに、経堂北CSミュージカルの名曲『パウロの名言集』に登場するパウロの御言葉を中心に学びました。日帰り参加も含め、子ども7人・大人9人の参加でした。経堂よりも暑い高尾の地での様子を、参加者のひと言日記でお伝えします！

小学2年 ハウプトハンナ真理子

きのうはみんなとあそんだりして、たのしかったです。でも1つもんだいがありました。それはきのうのよるごはんのはなしです。ごはんがからかったです。

小学5年 重藤莉愛

この2日間でいい思い出ができました。みんなと仲良くなったし、プログラムもすごく楽しかったです。来年も楽しみです。

小学5年 畠山詩央

プログラムはもちろん、ご飯や

お風呂など、すべてが楽しかったです。また来年も、キャンプに参加したいです。

中学1年 角田優衣

久しぶりのキャンプだったけど、プログラムとか全部楽しかったので、良かったです。来年もキャンプで楽しみたいと思いました。

中学2年 重藤佑里花

今年もキャンプで楽しいプログラムやお祈りもできて、みんなとあそべて楽しかったです！ごはんもおいしかったです！

中学2年 ハウプトニコラス有人

この2日を経て、みことばについて少しわかった気がします。今年のキャンプは参加できなかったけど、今年のキャンプに参加できて良かったです。

牧師 松谷祐二

おもしろくてたのしい2日間でした。個性あふれる、個性きわだつ、個性しかない？メンバー、一人ひとりが神さまの傑作。出会わ

せていただいて感謝！でも、御言葉との出会いは、これからもずっと続くものだよ。

教師 石室裕一

今年も神様に守られて、楽しいキャンプができました。ありがとうございます。

教師 石室優子

今年も白熱した十字架音頭をみんなで踊ることができました。振りつけがまちがっていたと小学生からしられました！

教師 原 知子

今年も高尾の地で無事にキャンプをすることができ、感謝でいっぱいです。みんなで色々なアクティビティをしましたが、ゲームなどを通じて楽しく過ごしました！何より主の御言葉に触れて、元気になることができました！

教師 原 良介

暑さが心配された2025年のCSキャンプも、パウロの御言葉をたくさん浴びて、

みんな元気に仲良く過ごせました。走って、考えて、歌って、踊って、描いて、書いて、笑って、楽しかった！

教師 牧内 歩

パウロの名言を基に、神様から与えられた御言葉について学びました。久しぶりに会う子どもたちの成長を嬉しく思い、神様とイエス様に感謝したいです。来年も皆でCSキャンプに参加することができすように。

栄光編集委員会だより



『栄光』は1953年7月に伝道のための月報として発行。編集責任者の十時英二先生は誌面の由来を「月報に『栄光』の名は些か重すぎる」「よくよく考えた末、神の栄光は私たちのもっとも卑しいところに顕されると思って(500号)と記しています。

当初は3段組ガリ版刷り6頁。多くの委員が長時間かけて編集を行い、印刷は外注していました。企画から発行までに相当の時間がかかっていたと思います。パソコンと印刷機の進歩により、2014年4月号からレイアウト、印刷・丁合とすべての作業を教会内で行うようになりました。これはプロの編集者・デザイナーである尾崎幸子姉と澤田寛子姉のおかげです。現在はプロ含む5名で毎月の編集作業を行っています。

特集は教員が執筆するので、その人となりがよく分かる頁です。近年は委員長がテーマを決め、原稿依頼は教員をよく知る牧師にしていたく形となり、昨年度

までは岸先生が構成、原稿依頼、印刷、HP掲載を、委員会では校正とデザインを、丁合は現在と同様に岩井姉が担っていました。

牧師交代に伴う慌ただしい引継ぎを受けて、本年4月号以降は委員会で印刷・丁合以外の全ての作業を行っています。各号試行錯誤です。教員の高齢化が進み、体調などに支障がある方もいらっしゃるので、執筆者は大幅に減っています。昨年、可能な限り月刊で4段組8頁の発行とする旨を長老会で確認しましたが、報告事項が少ない月が続き、臨機応変に対応するほかなく、7月号は4頁、今号は6頁になりました。

校正を行うなかで多少手を入れることがあります。執筆者の文体を大切に留意していますが、分かりやすさの観点からの校正が、書いた方のお気持ちに沿えなかったことがあります。より丁寧な対応を心掛けねばと痛感しました。『栄光』が伝道になっているのか疑問との声も聞きますが、栄光は私たちの卑しいところに顕されることを信じて、編集委員たちは毎月作業をしています。(酒井)

長老のファイル



今年の夏は猛暑が続き、北海道でも40度に迫るなど、異常な天候が続きました。そんな中でも、多くの教員の方々と礼拝を守り、またライブ配信を通して、共に主を賛美する時が持てておりますこと、感謝です。

松谷先生が当教会の牧師として着任されてから、5か月になりました。6月から7月頭には、初夏の集い、ルデヤ会例会、図書茶話会と3週連続で松谷先生にお話しいただき、教員としても先生のお人柄に触れる良い機会だったと思います。

多忙な日々を送られていた先生も8月1日から1週間、夏期休暇を取られました。そして、8月3日の主日礼拝で、経堂北教会で初めて、牧師や神学生ではなく、教員である大西長老による「奨励」が行われました。

大西長老のお話にもありましたように、奨励は「信徒による説教」のことで、専任の牧者に恵まれてきた経堂北教会では、今まで聞き

覚えのないことばでした。

プロテスタント教会の15%は無牧か、あるいは兼牧で、そうした教会では信徒による奨励も日常的なこととして行われているそうです。今までなかったことですが、長老会としても新たな経験として、教会へのご奉仕の仕方に取り組み時が与えられたのだと思います。

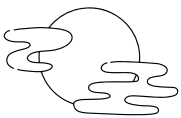
8月3日にはミニバザーも開かれ、8月15・16日には、CS夏季キャンプも行われました。

本年度は、コーヒアワーも形を変えて復活し、新しい『教会案内』も作成されております。

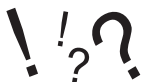
あと1か月程で本年度も半分が過ぎようとしています。教会の諸行事および各委員会活動は計画に沿って執り行われています。

秋からもいろいろな行事が控えております。一つひとつが御心によって導き守られますように。

(門田浩一郎)



個人消息



○風間 洸 (高岡教会員)

8月末で富山に戻られることとなりました。
この3年半、礼拝を共にされ、看板などの奉仕も担っていただきました。

掲示板



○振起日・特別伝道礼拝 9月7日(日)

説教「あなたの行く道」

ヨハネによる福音書 12:27-36

上野峻一教師

(東洋英和女学院中学部・高等部教諭)

○教会学校 2学期開始 9月7日(日)

○ナオミ会 9月9日(火) 午前10:30

○旧約を学ぶ会 9月18日(木) 午前10:30

○インマヌエル会 9月27日(土) 午後2:00

編集後記



▽子どもの頃、「夏休み」はそこだけ色分けされたような特別な期間だったのに、今ではあつという間に過ぎ去る日々の1コマ。もっと毎日の出会いに目を開かねば、と思わされました。
(原典)

「栄 光」2025 年 9 月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11

電話: 03-3428-5029 / FAX: 03-3428-5038

牧 師: 松谷祐二

編 集: 栄光編集委員会

Email: church@kyodokita.com

HP: http://kyodokita.life.coocan.jp



牧師の寄り道

生まれてから死ぬまで、人生は出会うことの連続だ。数えきれないほどの出会いがあるはずだが、おそらくその大半は「出会い」と呼ぶほど意識されるに至らず、ほんの一部が、素晴らしい出会いとして記憶され、心に残る。

どちらになるかは、相手との関わり方による。相手から何を聞いたか。相手に何を伝えたか。共に何を見て、何をなして過ごしたか。

偶然だけではなく、双方の意識と努力もあって、良い出会いになる。教会が、「素晴らしい出会い」に満ちた場となることを願う。何よりもまず、主イエス・キリストとの出会い、主イエスを通しての、神との出会いに満ちた場となることを。神と主イエスとの方では、私たちに会おうとして、どうに全力を傾けてくださっている。私たちの方でもそれにお応えしたい。皆で聖書を読み、皆で説教を聴こう。人の話は、勝手に一部を切り取らず、前後文脈を踏まえて、

全体を聞くのが礼儀だ。聖書にも文脈がある。神が、主イエスが、そこでお語りになっている。切り取り、つまみ食いはい避けたい。

教会が、「素晴らしい出会い」に満ちた場となることを願う。「キリストの体」と呼ばれるにふさわしいものとなることを。そうなるためには、私たちの意識と努力も必要だ。「主が一つにしてください」った教会の中に、自分と関係のない人はいない」という意識。話したことのない人にも一声かけてみる努力。個人的には不得手なが

ら、牧師もそれを努めている。全員が全員に対してそういう意識を持ち、努力を傾け始めるとき、教会は変わる。「隣人を自分のように愛しなさい」「互いに愛し合いなさい」という主イエスの教えに従うことは、教会の中から始まるのが本当の姿だと思う。

「神様と出会えて良かった」「イエス様と出会えて良かった」、「主にある兄弟姉妹に出会えて良かった」と言える人生は、本当に素晴らしい。

(松谷祐二)